

日本臨床検査医学会 第 62 回学術集会 EBLM 委員会教育セミナー

日時： 平成 27 年 11 月 19 日(木) 午後 5 時半～午後 8 時

場所： 長良川国際会議場 「大会議室」 第 2 会場

テーマ 臨床検査の変動要因分析法の理論と使い方の実際

臨床検査分野では、検査値の精密度・正確度の評価、基準値の生理的変動要因の分析などで、統計学の知識と技術が必要となります。本教育セミナーでは、それらの分析で必須となる、分散分析法と重回帰分析法について解説を行います。また各自ノート PC を持参いただき、身近な数値例を用いて演習を行い、その使い方を体験的に学んでいただきます。

17:30～18:40

1. 分散分析を用いた臨床検査値の不確かさの定量と変動要因の評価法 (70 分)

山口大学大学院医学系研究科 生体情報検査学 市原清志

検査値の不確かさ（誤差変動の大きさ）を定量的に評価する場合、その要因が 1 つの場合は一元配置分散分析法を、複数の場合は枝分かれ分散分析法を利用します。各誤差成分の大きさは SD または CV の形で表現されます。2 法は、基準値（健常者の検査値）の生理的変動要因（性差、年代差、地域差など）の分析にも有用で、各要因の重要性は、群間差指数を算出すれば、計測単位に依存せずに比較できます。

18:50～20:00

2. 重回帰分析による臨床検査値の生理的変動要因の分析法 (70 分)

天理医療大学 臨床検査学科 山西八郎

検査値の誤差要因が多数存在し、相対的にどれがより重要かが不明確な段階では分散分析ではなく、重回帰分析を利用します。一方、重回帰分析は、臨床検査値の生理的変動要因を分析する場合には必須の手段となります。例えば、HDL-C の値に、どのような個人特性が重要かは、分析結果として出力される標準偏回帰係数（偏相関係数 r_p ）から判定できます。ただ、的確な重回帰モデル式の作成には、説明変数の分布型や説明変数の相互関係の把握とその制御が必要です。複数の数値例を用いた演習によりその意味を解説します。

演習方法：実際の数値例（エクセル形式で配布）で演習を行います。必ずノート PC（OS は Windows 7, 8, 10; Mac 対応せず）を持参下さい。汎用統計解析ソフトウェア StatFlex の講習会版（無料）をインストールしてご利用いただきます。なおソフトのインストールを一斉に行うと時間がかかりますので、17 時以降入出可能ですので、早めにお越し下さい。セミナー開始前に会場で夕食を取っていただくこともできます。

受講対象者：日本臨床検査医学会会員

本セミナーは、日本専門医機構認定臨床検査専門医の更新のための臨床検査領域講習 2 単位に認定されています。

募集人数： 40 名

参加費：2,000 円（弁当 1500 円は申込み時にお知らせ下さい）。なお、本セミナーだけに参加される場合には、学会一日参加費として別に 3,000 円が必要となります。

受講申し込み・問い合わせ： 受講希望者は氏名・所属・連絡先(電話番号・メールアドレス)を明記の上、下記までお申し込み下さい。

v002up@yamaguchi-u.ac.jp （担当：山口大学医学部市原研究室 木村正吾）

電話： 0836-85-3183 **Fax**：0836-35-5213

申し込み締め切り： 2015 年 10 月 31 日(月)、ただし定員になり次第締め切らせていただきます。